



## メキシコ中高生 111 名受け入れ

1月13日（火）に開催されたメキシコ交流は、中高生合わせて111名という、過去にない規模の受け入れとなりました。メキシコシティにある Prepa Anahuac School の高校生は寒い中、都立大学駅から徒歩で本校に来校し、午前中はバディ生徒と共に先生方による日本文化授業に参加しました。弓道や羽子板など、実際の体験を通して日本文化の面白さを発見してくれたようでした。その後、本校の5年生徒全員とメキシコの中高生でグループに分かれ、一緒に昼食を食べて交流を深めました。英語で会話する中で、両国間の学校の授業の違いや校則の違いなどに驚く場面もみられました。5時間目には5年生が12月から準備してきた交流授業として、折り紙やカルタなどを楽しみました。その後メインアリーナに移動し、全体でのセレモニーが6時間目に執り行われ、両校の学校長による記念品交換や代表生徒によるパフォーマンスが行われました。明るく盛り上がるのが大好きなメキシコの中高生は、本校生徒による空手や和太鼓披露に大歓声を上げていました。終了後、校舎ツアーや部活見学で日本の学校生活についてさらに理解を深めてもらい、バディ生徒に見送られながら本校を後にしました。

## 生徒の感想

- ・今まで最大で1クラス前後の人数しか受け入れたことがない桜修館で、111人という団体訪問のマネジメントを任せられ終始プレッシャーを感じていたが、国際係とバディ生徒をはじめとする16期生、そして各教科の先生方からの温かいご協力により、どうにか全プログラムを無事に終えることができた。今まで桜修館で積み重ねてきた経験や英語力を存分に発揮し、5年の国際交流行事を締めくくれたと思う。今回のメキシコ交流に関わってくれたすべての人に感謝したい。また、なかなか使う機会がないスペイン語を、実際の会話で使うことができるとても嬉しかった。
- ・今回は文化も言語も全く違う約11,000km離れた国との交流で、自分が知らなかった食文化やスポーツを教えてもらうなどの両国の相違点だけでなく、お互いの共通点を見つけることでも話が弾んだ。全体への指示が思った様に通らなかったり、誤解があったりするなど異文化交流の楽しさと大変さの両方を実感出来る非常に良い経験となった。
- ・短い時間ながら、メキシコの各地から来た100人を超える生徒たちとの会話の中で、普段の生活や娯楽などの話題を共有し友好を深めることができた。中南米の生徒を受け入れたのは初めてで、慣習の違いに驚くこともあったが、とても貴重な経験になった。
- ・私はメキシコ交流を通じて、両国の間の違いを感じ、とても興味深い体験をすることができた。メキシコの方々が、日本の学校や日本の文化に多くの興味を持っていたことに、とても驚いた。